



梅雨前線に台風…。平素から防災への意識と備えをしておくことが大切ですね。

「いのちについて考える」一週間でした。

夢を叶えるなら 豊高定時制

但馬を支える人材をめざすなら 豊高定時制

6月11日(火) 防災避難訓練を行いました。

豊岡市消防本部から副署長さんをはじめ3名の方々に来ていただき、防災避難訓練を行いました。午後7時、但馬地方で大規模地震が発生し、その後校舎の一部から出火した、という想定です。緊急放送に続き、生徒の皆さんを安全かつ迅速にグラウンドに誘導する訓練を行いました。避難指示の放送開始からグラウンドでの点呼・人員確認終了まで3分45秒でした。



今回の避難訓練の課題として「大規模地震後の火災を想定しているのであれば、校舎内外に壊れた窓ガラスが散乱している、またはコンクリート片が落下してくるなどの可能性があるということを入念に入れて、足下や頭上の安全を常に確認しながら避難することが必要」という点があげられます。また夜間定時制の本校では、「地震発生とともに停電し、真っ暗な中を非難しなければならぬ」という状況も想定しなければなりません。これらのことを今後の訓練や防災教育に生かしていきたいと思えます。

水消火器を使った消火訓練のあと副署長さんの講話を聞き、88年前の北但大震災、平成7年の阪神淡路大震災、平成16年の台風23号水害、そして平成23年3月11日の東日本大震災など、私たちの日常生活がまさに災害と隣り合わせであることを学び、自分の命、そして大切な家族の命を守るために何ができるかを考えました。「災害への備えは、最悪を考えて悲観的に、しかし楽しく(楽観的に)準備をすることです」という、たいへん貴重なお言葉で訓練を締めくくっていただきました。



社会を支える一員として期待されている生徒の皆さん、今回の訓練を今後の社会生活でぜひ活かしてってください。

6月14日(金) 講演会「いのちって何だ？」

～赤穂市民病院産婦人科部長 東田太郎医師をお迎えして～

生まれてくる命があり、生まれてくるができなかった命がある…。命の重さを計ることなんてできません。私たちが今こうして「呼吸している」ということ、おなかへへってものを食べるということ、水を飲むということ、そして食べれば身体から外へ出さないと生きてはいけないということ、すべてが「奇跡」なのだと思えます。東田先生の講演の内容を、ここで何かの言葉に「まとめる」ことなど、どうていできないことだということは、講演を聴いた皆さんが一番よく知っていることですね。



「誕生日は親が子どもに感謝する日。生まれてきてくれてありがとう。」「子どもが私を親にしてくれたのです。」これらの言葉にも「命のバトンをつなぐ」という東田先生のメッセージの意味が込められていたように思います。スライド上映のために部屋の照明を落としてあったことに感謝します。目が潤んでいるのを周りの人たちに気づかれなくてすみませんでしたからね。